

「なぜ感動するのか？」

2017 年 11 月 18 日 (土) 15:00-17:00

喫茶室ルノアール四谷店 4 階

参加：17 名

司会・文責：堀越

1. 概要：

- ・初参加者 4 名を含む総勢 17 名で、主に、私達を感動させるコトの正体やその価値について考え、対話をした。

2. 対話：

(0) 問いの提起

- ・進行から「一人の知人とコンサートに行き、その知人は涙を流す程に感動していたのに対して、自分は全く感動しなかった」という個人的な経験を紹介した上で、感動について考えたいと提起した。

(1) どんなことに感動した経験があるか？

- ・スターウォーズエピソード 2 を観たときには、圧倒されて、晩ご飯を食べられなかったことがある。
- ・野球の対韓国戦を観戦中、日本がホームランを打って同点となり、その後で逆点して 8 対 7 で勝った。
- ・病院で医療費を支払ったら 1 万 2 千円も掛かり、感動し、動揺して、涙が出てきた。
- ・ソチ五輪で、浅田真央が前日ショートのジャンプでは失敗して 16 位と低迷していたが、翌日のフリーでは合計 8 回の三回転ジャンプを完璧に決めた。観たときは、心の中でガッツポーズし、やり遂げた、凄い、と感動した。彼女が目指していたものに到達できたという様子に「良かった！」という彼女の思いが伝わってきた。(彼女の) 想像の範囲内で美しさを伝えることに成功したのだと思う。
- ・映画を観ていたとき、気が付くと泣いていた。終了後もしばらくは席を立てなかった程に圧倒された。

(2) 2 回目は感動しないか？

- ・最初の鑑賞で感動した映画・ドラマも 2 回目に録画で観るとそうでもない。最初の興奮は味わえない。
- ・体験する条件や環境等に依存するのではない。例えば、北朝鮮がミサイルを発射したと騒いでいた朝のことだが、電車内で少年が老人に席を譲って、少年が老人から飴をもらうという光景を見たが、その朝は緊迫していた条件下であったためか、(普段ならそうでもないかもしれないが) 感動した。
- ・「君の脾臓をたべたい」という映画を複数回観たが何回目に観ても涙が流れた。2 回目以降で涙の量に変化がなかったか等は判然としないが「2 回目以降の体験では感動しない」とは言い切れないと思う。

(3) ネット上の物語？

- ・この話は嘘かもしれないと思う(疑う)ことがある。このように、信じ切れないと感動し切れない。
- 始めからフィクションと分かっている映画でも感動する。嘘と分かっているでも感動するのではないか。

(4) 感動させるコトの正体は？

- ・悲しさや苦しさ等を表現する興奮ではなくて、嬉しさ等を表現するものが感動というコトではないか。
- ・感動させるコトの正体は、嬉しいもの、(心の) 琴線に触れたもの、であると思う。
- そうだろうか。嬉しさだけでなく、悲しさのようなネガティブな感情でも、興奮したり圧倒されたり心が動けば、感動というのではないか。つまり、制御不可の身体の変化は感動と言えないか。
- そうであれば、感情の変化と感動は一緒ということになってしまうがそれでいいか。
- やはり感動は、快いコト、心地良いコト、快感なコトである。そうでないと、上司が部下を叱るときや、恐怖に足が竦むという状況によって、感情が変化しても感動ということになってしまう。どちらもありそうだが、感動とは呼ばないのではないか。
- ・ミラーニューロンの働きと良く言われるが、泣く人を見て泣くのではないか。
- 浅田真央の演技については、彼女が泣かなかったとしても感動したはずである。
- ・私達を感動させるコトには、2 種類がありそう。①初めて知ることでも無知が破られる場合、②自分の心の琴線に触れるか好きなストーリーに嵌まる。この 2 つに該当すると感動するのではないか。

(5) 感動するのはなぜか？

- ・私達はいつも感動するチャンスを探しているのではないか。
- ・共感するコトが感動するに繋がっているのではないか。」
- ・美術・アートの業界にいる者だが、感動させるには、特定のパターンがある。音楽であれば、テンポやコード進行に特定のパターンを用いることで、人々の感情に訴えることができる。大ヒットした「君の名は。」という映画も、感動メータというツールを用いて、感動作りを目指したと言われている。
- ・感動は、快楽と一緒にあるのか。快楽は情報を作り込めば制御できるが、感動はできないのではないか。
- 感動もできるのではないか。
- ・感動とは、快感に何らかのプラス α が加わったものではないか。 α とは、①自分の体験とのシンクロ(共感)、②自分の体験を打ち破る(驚き)の 2 つである。
- ・もしそうなら、赤ちゃんから大人への移行を考えると、大人は経験量が多いから驚きは減るが体験への共感が増えるという変化があるはず。また、大人は驚きに対する希少性が上がることになる。
- 大人になると涙もろくなる。
- ・感動のメカニズムを考えたとき、感動の元は何か？
- 作品の作り手には伝えたいコトがまずあって、それを伝える過程で人々を感動させたい(感動してもらえれば嬉しい)と考えているはずである。それらは切り分けできるのか。
- マーケティングの手法ではあるかもしれない。作り手は意識しているだろうが、不可分ではないか。
- ・人間に組み込まれた何かではないか。生きていることに繋がっているかもしれない。
- ・母が作った料理が不味くても、料理の過程で母が頑張ったことを知ったら、感動するかもしれない。
- 感動は、結果が伴わないこともある。

(6) 感動の元の価値とは何か？

- ・作り手の立場からは、何か伝えたいコト等の価値が想定されているはずだが、その価値とは何か。
- それは、自分よりも大きなコトや、親切心等の自分にはできないコトではないか。
- 善く生きようと思っているような人間にとって善いモノ・コトでもある。
- そこには、作り手がかけた時間も入るかもしれない。

3. まとめ：

- ・感動の元は「自分より大きなコト、人間にとって善いコト」という考えが終盤に提起されたが、深める時間がなくなった。また、途中提起された美との関係も深めてみたい点であったが、参加者各自の黙考に委ねたい。

以上